

令和 8 年度 千葉県 英語教育改善プラン

目標

積極的に英語を使い、コミュニケーションを楽しみ、自分の気持ちや考えを伝え合うことができる児童の育成

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①・・・授業中の言語活動について、R6は「話す（やり取り）」が多かったが、R7は「話す（やり取り）」に加え、「聞く・読む・書く」に関する言語活動が増えてきた。

②・・・パフォーマンステストを実施している学校が増加した。

	R6	R7
5年生	95.5%	96.8%
6年生	96.8%	97.1%

未だ改善が必要な点

①・・・授業中に言語活動を50%以上行っている学校が減少した。

	R6	R7
5年生	91.5%	89.9%
6年生	91.8%	90.5%

②・・・言語活動における技能間のバランスの不均衡（特にやり取りへの集中）が見られる。

2. 要因分析

①・・・指導主事による学校訪問や研修の実施、パフォーマンステストへの理解促進等により、児童が楽しみながら、様々な言語活動に取り組めるようになってきていることが考えられる。

②・・・パフォーマンステスト実践事例集を作成し、HPに掲載したことで、複数回実施や単元ごとの実施等、計画的・継続的な取組につながったと考えられる。

①・・・言語材料について理解するための指導にとどまり、言語活動への目的、場面、状況の適切な設定に課題があることが要因として考えられる。

②・・・様々な取組を行っている学校が増えてきているが、目的・場面・状況の設定が明確でないため、聞く・読む・書く活動に広がりず、特定の技能に集中しやすくなると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

児童の英語力向上のため、県として事業や研修等を継続的に実施していく。

◆外国語担当指導主事による授業参観及び指導助言

授業参観及び指導助言を継続的に行うことで、各授業のめあてや目標の達成に向けて、児童が楽しみながら活動できるよう、授業構成や言語活動の目的、場面、状況の設定等について指導助言していく。また県HPやMEXBE Tを活用したパフォーマンステストの実施についても周知し、未実施校や実施の少ない学校の減少を目指す。

◆各種研修の活用

・外国語教育小・中連携推進協議会

小・中学校の外国語担当教員が各校種の指導内容や指導方法について相互に理解を深めるとともに、県内各地域の外国語教育における小・中連携の推進を図ることで小中連携をより強化していく。

・小学校外国語スキルアップ研修

英語音声に気づかせる指導法や、英語音声から読み・書きにつなげる指導法を学び、授業改善につなげていく。また研修内容をもとに参加者が各所属校で校内研修を行うことで周知していく。

・指導主事研修会

各学校での授業改善や言語活動がさらに充実するように、全県の指導方針の統一や連携強化を図るため、情報交換や勉強会等を行うことで、各地区の指導主事の指導力向上を図っていく。

令和 8 年度 千葉県 英語教育改善プラン

英語を使って、自分の気持ちや考えを即興で伝え合うことができる生徒の育成
 ○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：55.3%⇒R8：57.5%⇒R9:60%）

目標

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
（パフォーマンステスト含む） （AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①・・・CEFR B2以上を取得している英語教員の割合が上昇した。

R6 R7
46.0 → 62.9

②・・・パフォーマンステストに関しては、話す活動（発表・やり取り）に加え、インタビュー等を取り入れる学校が増えてきた。

未だ改善が必要な点

①・・・3年生でCEFR A1相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が減少した。

R6 R7
55.9 → 55.3

②・・・授業中に言語活動を50%以上行っている学校の割合が減少した。

R6 R7
69.0 → 61.6

2. 要因分析

①・・・教員の英語力・指導力の向上を図る研修を継続的に行っている。また外部試験として、英検を活用しており、少しずつではあるが資格取得者が増加している。

②・・・研修等を継続的に行うことで、パフォーマンステストの定着と多様化につながってきていると考えられる。

①・・・英語力の見取りに関しては、様々な指標を複合的に用いる必要があるが、外部試験の結果のみを参考にしていている場合があることが要因と考えられる。

②・・・教師の文法指導や「読むこと」等の一部の技能の指導に時間を割いていることが要因となっていると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

生徒の英語力向上のため、県として事業や研修等を継続的に実施していく。

◆外国語担当指導主事による授業参観及び指導助言

外国語担当指導主事による授業参観及び指導助言を継続的に行うことで、教員の指導力向上を目指す。

◆4技能向上English Workshop

教員の英語力向上を図ることで、授業中の英語による発話量の増加を通して、4技能をバランスよく指導することで、生徒の言語活動の充実につなげていく。

◆英語教育連絡協議会

英語教育実施状況調査の結果分析及び生徒の英語力の見取り方法についての確認を行い、同一步調での見取りにつなげていく。

◆外国語教育におけるICTの実践的な活用研修

外国語教育の視点から、一人一台端末の活用や、ICTをさらに活用するための理論と実践を学び、ICT活用能力の向上を図ることで、生徒の英語による言語活動がより充実するよう研修を行う。また本研修の参加者が各所属校や各地域での研修を企画運営し、周知を図っていく。

◆外国語指導助手及び外国語担当教員指導力向上研修会

ALTとJTEを対象に、一層効果的な語学指導ができるよう必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、外国語教育の充実を図る。

令和 8 年度 千葉県 英語教育改善プラン

英語を使って、社会問題等について、相手に分かりやすく説明し、討論することができる生徒の育成

- CEFR A 2 レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7 : 50.3 % ⇒ R8 : 55 % ⇒ R9 : 60 %)
○CEFR B 1 レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7 : 25.2 % ⇒ R8 : 27.5 % ⇒ R9 : 30 %)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①・・・CEFR B2以上の資格を取得している英語教員の割合が向上している。(R6 79.7%⇒R7 81.3%)
- ②・・・CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が改善した。(R6:22.9%⇒R7:25.2%)
- ①・・・英語担当教師の英語使用状況の割合に改善の余地がある。(R6:48.6%⇒R7:35.2%)
- ②・・・生徒の英語による言語活動の割合に改善の余地がある。(R6:55.4%⇒R7:51.3%)

2. 要因分析

- ①・・・教員の英語力・指導力の向上を図る研修を継続的に行っている。また外部試験として、英検を活用しており、少しずつではあるが資格取得者が増加している。
- ②・・・研修等をととして、英語力の適切な見取りへの意識が高まり、授業改善が進んでいると考えられる。
- ①②英語使用および言語活動の割合が低下している背景には、授業が説明中心となり、日本語による指導が増加していることや、科目間の役割分担が十分に機能していないことが考えられる。また、意見や主張を伝え合う活動は評価機会が少なく、指導方法や重要性の理解も十分でない可能性があり、対話的な言語活動が定着せず、英語使用の広がりが抑えられていると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- 生徒の英語力の更なる向上に向けて、「授業改善」「教員の英語力・指導力向上」を重点として位置づけ、研修や事業を実施する。
- ◆外国語担当指導主事による授業参観及び指導助言
 - ◆高等学校教育課程研究協議会による協議や実践共有
各校の英語教育の課題を共有し、その解決に向けた方策や具体的な授業実践について協議する。その際、県内の好事例について、実際に使用されたパフォーマンステストの課題、評価基準等を共有することにより、各学校における即時の実践と持続可能な指導の改善を図る。
 - ◆外国語教育におけるICTの効果的な活用研修
AI等を含むICTを活用することで、生徒の英語による言語活動が実践できるように研修を行うことにより、授業改善を促進させる。
 - ◆4 技能向上English Workshop
教員の英語力向上を図ることで、教員の英語による発話量を増加させ、生徒の英語による言語活動の充実につなげる。
 - ◆英語教育拠点校実践交流会
英語教育拠点校（県立高等学校 13校）において、近隣の小中学校及び県内高等学校の教員等を対象に授業公開を行い、校種間の連携を促すとともに、優れた実践を他の高等学校に周知する。また、外部講師を招き、指導方法及び評価の改善について助言を受ける。
 - ◆ALT 及び外国語担当教員指導力向上研修
直接雇用ALT及び英語担当教員にワークショップを中心とした実践的な研修を実施し、ALTの効果的な活用について周知していく。

千葉県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		58	45.9	59	50.1	60	50.3	55		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		30	21.9	30	22.9	33	25.2	27.5		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		100	49.9	100	55.4	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		100	36.1	100	41.1	100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	75.3	100		100		100		100	
		公表(%)	100	40.9	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	43.5	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		90	75	95	79.7	100	81.3	100		100	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		100	42.1	100	48.6	100	35.2	100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		58	53.7	59	55.9	60	55.3	57.5		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		100	67.3	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		100	75.1	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	95.5	100		100		100		100	
		公表(%)	100	48.4	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	66.1	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		65	44.7	70	46	75	62.9	75		75	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		100	61	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	61.1	100		100		100		100	
		公表(%)	100	24.4	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	48.8	100		100		100		100	